



唐泉山を仰ぎみて

嬉野市立塩田中学校
「学校だより No.7」
令和8年10月1日
文責：校長 宮崎武司

学校教育目標「心豊かにともに伸びる」

～ 仲間とともに伸びる 教師とともに伸びる 保護者・地域とともに伸びる ～

厳しかった夏の暑さもようやく和らぎ、澄んだ青空が広がる爽やかな季節を迎えました。学校生活においては、1年の中で最も落ち着いて学習や部活動に取り組める「充実の秋」の到来です。さて、いよいよ今月は学校の大きな行事の一つである「体育大会」が開催されます。放課後になると校舎のあちこちで3年生の威勢のいい声が響きわたり、学校全体が活気に満ち溢れています。

【体育大会に向けて】

10月17日（土）に体育大会を予定しております。すでに実行委員会を中心に準備が進められています。今年度の体育大会のスローガンは、「本気で挑め！ 塩中魂ここにあり」に決定しました。

今年度は赤団・青団の2団に分かれて競い合います。先日行われた結団式では、それぞれの団長、副団長、応援リーダー、制作担当、衣装担当の皆さんが体育大会に向けた意気込みを話してくれました。

また、各団のスローガンに込められた決意を団長に聞きました。

赤団：「気炎万丈」

「炎」が赤団を表現できるという思いと、「気炎万丈」が他の人を圧倒するほどの意気込み、自分の意見や抱負を威勢よく語る様子という意味があります。赤団全員が威勢よく自分の力を発揮して、優勝をつかみ取るという決意を込めました。

青団：「空前蒼海」

前例のない挑戦を自分たちで成し遂げたい、という思いから生まれた私たちのオリジナルの言葉です。過去の常識にとらわれることなく、青く深い海のように壮大な、最高の体育大会を自分たちの手で創りあげるという決意を込めました。

今年度の体育大会実行委員長は、Aさん（3-2）とBさん（3-1）です。ここで、二人の実行委員長に体育大会にかける思いを語ってもらいました。

【体育大会実行委員長】

○スローガンにある「塩中魂」とは具体的にどういうことなのか？

Aさん：元気さや明るさ。そして団結力。

○どのような体育大会にしたいのか？

Bさん：活気のある体育大会にしたい。クラスや学年の団結力を高め、それを合唱コンクールまでつなげたい。

Aさん：体育大会に向けた自分の思いを出して体育大会に挑んでほしい。

一人一人が体育大会への思い（協力する、全力で頑張るなど）を持って活動し、これからの学校生活に活かしてほしい。

【結団式：赤団】



【結団式：青団】



【職場体験学習を終えて】

9月16日（水）・17日（木）の2日間にわたり、2年生が職場体験学習を実施しました。嬉野市・鹿島市の31か所の事業所にご協力いただき、生徒たちは教室では学べない貴重な体験をしました。体験後、各事業所の皆様にアンケートを取り、気づきや感想を書きいただきました。

〔事業所より〕

- ・看護師や薬剤師に興味をもっている生徒さんが多かったので、積極的に活動ができたと思います。（病院）
- ・緊張もありつつ、積極的に取り組む姿勢は見られました。職員からの声掛けにもすぐに対応していました。この2日間で楽しかった経験などを通じて、プラスイメージとなっていれば幸いです。（福祉施設）
- ・建設業の仕事について知りたい・学びたいという意欲がしっかり伝わってきました。挨拶や言葉遣いなどの礼儀も正しく、終始気持ちの良い姿勢で活動に取り組んでいました。（建設業）
- ・最初は恥ずかしさもあってなかなか声も出ませんでした。挨拶やお客様への対応を重ねるうちに、自分から進んで行動できるようになり、笑顔で接客する姿が見られました。素直で一生懸命な姿勢は、スタッフにとってもいい影響となりました。（ガソリンスタンド）
- ・根気のいる仕事でしたが、教えられた作業を丁寧に、真面目にされていました。暑い中での作業は大変だったと思いますが、こんな仕事もあるんだといい社会勉強になったとしたら幸いです。（園芸業）
- ・言葉遣いについて注意を受けることができました。（幼稚園）
- ・とても素直で礼儀正しく、そういう点では評価できます。自発性や元気があれば、もっとよくなると思います。（小売店）
- ・自分から積極的に担当にできることがないか尋ねると、体験の幅が広がったと思います。

（小学校）

職場体験学習の目的に、「実際に仕事を経験することにより、自己の適性や興味を再発見し、自己理解を深めること。」「社会生活・職業生活を営む上での、礼儀・ルール等の大切さを理解し、社会人・職業人としての適応力を高める。」があります。ご協力いただいたアンケートからは、「職業に対する具体的なイメージがもてていた」「自分の良さを発揮しようと前向きに取り組んでいた」など、多くの生徒の活動を褒めていただきました。一方で、「言葉遣いや、慣れない環境への適応に苦労していた」「自発的に動く積極性や、元気がもっと欲しかった」といった、今後の課題となるご指摘もいただきました。

これらの課題は、日頃の学校生活や家庭生活での態度が、緊張する場面において自然と表出したものと言えます。生徒たちが今回の気づきを真摯に受け止め、これからの生活態度や言動をより良く改善していけるよう、学校でも引き続き指導を行ってまいります。ご家庭でもぜひ、体験の様子をお子様と振り返っていただければ幸いです。

生徒たちを温かく迎え入れ、ご指導いただきました各事業所の皆様に心より感謝申し上げます。

